

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

## ようこそ府立障害児学校へ 穏やかな日差しのもと、新規採用者を温かく出迎え

### 任命式会場前宣伝

2017年度の府立障害児学校では、46の職場に376人の新規採用者が赴任しました。4月3日の朝、大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)で行われた「大阪府公立学校新採用教職員任命式」に際して、大障教は恒例となった出迎えの歓迎宣伝を行いました。年度初めの多忙な中、穏やかな春の日差しが降り注ぐ好天にも恵まれ、12分会から25人が参加しました。

宣伝行動に参加するみなさん



「支援学校に着任される先生はいらっしゃいますか?一緒に学校に行きましょう。」任命式の会場前には、これから同僚となる新しい仲間をさ

がす参加者の声が響き、スーツ姿で緊張気味の初任者の皆さんを励まそうとする、温かい雰囲気での宣伝となりました。うまく赴任先の仲間に出会えた方は、さぞ心強かったのではないかと思います。顔見知りの参加者を見つけて、ホッとしようと言葉を交わす光景が、あちこちで見られました。  
新年度の初日に仕事の手を止めて会場まで足を運ぶのはさぞ大変だったことでしょう。参加してくださった皆さんはもろろん職場に残って、参加者を送り出してくれた方々の配慮に改めて感謝します。



#### 宣伝行動に参加して

任命式会場前宣伝行動にはじめて参加しました。分会の名前を大きく書いたのぼりが立てられ、「支援学校の先生はおられますか?」と呼びかけると、たくさんの初任者が「私、支援学校です!」と笑顔で資料を受け取ってくれ、歓迎の気持ちがいっしょに伝わる、温かいとりくみだと感じました。組合に好感をもってもらえるこの宣伝行動がきっかけになって、たくさんの初任者が組合に加入されることを期待します。(久保知子)



昨年度と同様400人近い新規採用者を迎える府立支援学校に加え、府立高校・地域の小中学校・養護教諭・栄養教諭・事務職員の新規採用者を合わせて、千人近くが集まる会場の入り口付近は、開場時間の9時00分をすぎるとかなりの混雑となりました。残念ながら、同じ職場の初任者とうまく出会えなかった分会もありましたが、各分会が目立つように工夫を凝らした手作りの横断幕やのぼり等は任命式の強い雰囲気や和らげるのに十分な効果を発揮していました。  
任命式終了後、宣伝に参加した方々は、初任者と一緒に、年度始めの仕事が山積する職場へと向かいました。2016年度は、各分会の奮闘により100人近くの教職員が、新たに府立障害児市障教に加入しました。大障教スタートの年となる2017年度も、初日から新規加入の報告が複数の分会から届き、執行部も元気をいただいています。  
教育をめぐる状況が依然として厳しい中、新規採用の仲間たちが、子どもたち一人一人にしっかりと向き合い、持てる力を教育実践に集中できるように職場環境を作るためにも、引き続き教育条件の改善と、教職員の労働条件の改善をめざすと、とりくみが重要です。任命式での出会いも生かし、青年・ベテラン問わず、一人でも多くの教職員を大障教に迎えることができるように、今年度も創意あふれるとりくみを進めていきますように。

大障教ホームページアドレス <http://www.1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



#### 書記局のひとりごと

安倍内閣が、「教育勅語」を学校教育の教材にすることを、否定されることではない」とした答弁書を、閣議決定しました。官房長官や文部科学大臣に至っては、道徳の教材にすることも「否定しない」と発言しています。官房長官は憲法や教育基本法に反しなければ、とも述べています。しかし、そもそも「教育勅語」は、日本国憲法や教育基本法制定に伴い、国会で排除・失効が決まったものです。憲法などと両立するわけがありません。  
「教育勅語」は、1890年に当時の君主である明治天皇が臣民(国民)に守るべき徳目を示した教えとして発布されました。日本は、天皇の祖先が始めた国だと述べた上で、親孝行や夫婦仲よくなど、12の徳目が並べられ、それらはすべて、天皇のために命を差し出せ」という結論につながっています。安倍内閣が、「教育勅語」にも家族愛や隣人愛などの徳目が含まれているなどと主張するのは、その本質を覆い隠そうとするものです。  
戦前の学校では、「教育勅語」は特別の部屋に置かれ、行事のたびに学校長が読み上げて、子どもたちや教員は最敬礼で聞かなければなりません。教育勅語が国民の基本的人権を認めず、アジア諸国への侵略戦争に、国民を駆り立てた命令だったことは明らかです。  
戦後、こつとした扱いが改められ、国会で排除・失効が決議された際には、「教育勅語」に、指導原理的性格を認めないことが明確にされました。こつとした歴史的経過から言っても、「教育勅語」を復活させ、ましてや道徳などの教材にするなど、絶対に認められることはありません。

# 人の不幸を利用する「経済成長」を許すな!

# カジノあかん3・25大阪集会に1千人

3月25日、カジノあかん大阪集会がエルおおさかで開催され、1千人近い市民が会場全体を埋め尽くしました。「カジノ問題を考える大阪ネットワーク」をはじめ、労働組合・市民団体など約30団体で構成された集会実行委員会が主催し、府障教・市障教からも5人が参加しました。

## 街の荒廃と依存症の悪化をもたらし

主催者あいさつを行った、実行委員長 桜田輝雄さん(阪南大学教授)は、「大阪に、そして日本のどこにもカジノ解禁を許さない。そのためたたかいを進めていきたいと思います」と呼びかけました。



「カジノあかん」のステッカーを掲げる参加者

続いて、弁護士の 新里宏二さん(全国カジノ賭博設置反対連絡協議会代表)が「なぜ今、カジノ解禁か、賭博解禁法を運動でつぶそう」と題して、

「日本では、民間賭博解禁の問題点や、ヤミ金融被害・自殺の増加など、シンガポール・韓国などの海外カジノの悲惨な実態もリアルに紹介しました。その上で新里さんは、600兆円の個人資産で、カジノがもたらすのは街の荒廃とギャンブル依存症の悪化です。人の不幸に乗った成長戦略や経済成長を認めてはいけません」と強調しました。

## 子どもたちが明日に夢を持てる社会に

集会では、ご自身の親がギャンブル依存症だったという女性も発言しました。子ども時代は、日中の大半をパチンコや競輪、ポーター会場などギャンブル場で過ごすというその女性は、

「ごしたというその女性は、親から子へと世代を超えて

## カジノ阻止は大阪に品格を取り戻すたたかい

リレートークでは、各界の市民が次々にマイクを握りました。競艇場のある住之江区の住民は、ギャンブルに負けた客をめぐる住民トラブルを紹介し、「カジノは絶対いらん」と訴えました。大東市の男性は、「賭博は勝つからではなく、負けるからはまるもの。パチンコにはまった私はそれが痛いほど分かる。カジノは国家の自爆装置」と告発しました。

## 連帯の輪を広げよう

中野冬美さん(あかんカジノ女性ネットワーク)は、貧困に苦しむ母子家庭の現実に触れ、「子どもと女性を貧困に追いやるカジノは許せない」と語りました。落語家の笑福亭竹林さんは、「カジノ阻止は大阪に品格を取り戻すたたかい。ご一緒に頑張りましょう」と呼びかけました。

また、住民投票でカジノの側を否決した台湾・澎湖島の住民グループ代表も登壇し、「私たちは正義と希望をもち続ける限り、倒せない敵はいない」と、参加者を励ました。



パレードに参加する府障教組員



貧困とギャンブル依存が連鎖していく現実を紹介しました。そして、「カジノができれば、私のように泣く子どもがいっぱい出てきます。自殺や家庭崩壊、失踪で悲しむ家族もいっぱい増えます。子どもたちが明日に夢を持って育っている社会にしてほしい」と語りました。

集会には、社民党・自由党・日本共産党の代表も参加し、「野党が連携してカジノ阻止へ全力を挙げます」となどあいさつしました。集会の最後には、地震や津波の危険性が指摘される土地に、数万・数十万の人を集める計画は「あまりにも無謀」などと訴え、「連帯の輪を大阪の街のすみずみに広げ、カジノ誘致を阻止しよう」と呼びかけた「集会アピール」が採択されました。

また、住民投票でカジノの側を否決した台湾・澎湖島の住民グループ代表も登壇し、「私たちは正義と希望をもち続ける限り、倒せない敵はいない」と、参加者を励ました。

集会後、参加者は「カジノはあかん」と書かれたプラカードを手に扇町公園までのコースをパレードし、「自治体ギャンブルすずめるな!」「カジノの予算は福祉にまわせ!」などとアピールしました。